

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
年 月 日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 愛知県一宮市萩原町松山566番地の8	
氏 名 岩田食品株式会社 代表取締役 岩田 功 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0586-71-0311	
<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	岩田食品株式会社 本社工場
事業場の所在地	一宮市萩原町松山566-8
計画期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	09 食料品製造業
②事業の規模	売上高 102,61百万円
③従業員数	516人 (H23.3月末時点 パート・アルバイト含む)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>原料前処理 → (皮、へた等) 動植物性残さ、(梱包用資材) 廃プラスチック類                  加工工程 → (製品残さ) 動植物性残さ、(梱包用資材) 廃プラスチック類                  包装工程 → (製品ロス等) 動植物性残さ、(梱包用資材) 廃プラスチック類                  製造全般 → (原料入荷形態による) 金属くず、廃プラスチック類                  廃水処理施設→余剰汚泥、有機汚泥                  別紙1「産業廃棄物の種類別発生量と処理方法等」                  別紙2「製造工程及び廃棄物の発生・処理のフローシート」参照</p>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項					
(管理体制図)					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           廃棄物統括責任者 生産本部長         </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           廃棄物処理責任者 生産管理部主任         </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           廃棄物実務担当 生産管理部施設営繕         </div>	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					
①現状	【前年度（ 23 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラ	金属くず	汚泥
	排 出 量	1,546 t	364 t	24 t	45 t
	(これまでに実施した取組) 主要野菜の加工時点での歩留まり向上 数値管理による製品ロス低減				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラ	金属くず	汚泥
	排 出 量	1,645t	365 t	30 t	400 t
	(今後実施する予定の取組) 主要野菜の加工時点での歩留まり向上 数値管理による製品ロス低減				
産業廃棄物の分別に関する事項					
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 再生可能品目に関する分別の実施 再生可能品目の内有価取引可能品の分別実施				
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 再生可能品目に関する分別の実施 再生可能品目の内有価取引可能品の分別実施				

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 23 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ※該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ※該当なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 23 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) ※該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ※該当なし		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項					
①現状	【前年度（ 23 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		t	t	
	(これまでに実施した取組) ※該当なし				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	t	
	(今後実施する予定の取組) ※該当なし				
産業廃棄物の処理の委託に関する事項					
①現状	【前年度（ 23 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃プラ	金属くず	汚泥
	全処理委託量	1,546 t	364 t	24 t	45 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	1,546 t	351 t	24 t	45 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 年1回の処分業者視察 動植物製残さの一部飼料化（残りは堆肥化）				

(第5面)

②計画	<b>【目標】</b>				
	産業廃棄物の種類	動植物製残さ	廃プラ	金属くず	汚泥
	全処理委託量	1,645 t	365 t	30 t	400 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	1,645 t	358 t	30 t	400 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 年1回の処分業者視察 →優良認定処理業者認定を目指した取り組みを依頼				
※事務処理欄					

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

## 産業廃棄物の種類別発生量と処理方法等

## 別紙 1

廃棄物の種類	廃棄物の具体的内容	前年発生量 (平成 23 年)	性状 有害物質の 有無、濃度	処理方法 (中間及び最終処分方法)
動植物性残さ	○ 製造工程より出る原料用野菜等の切り屑、皮、へた等の廃棄部分、半製品ロス等の生ごみである。	1,546 t (78.1%)	固形 無し	委託処理 (リサイクル) 堆肥化 飼料化
汚泥	○ 排水処理場から出る余剰汚泥で脱水処理をした状態で含水率 85%のもの。	22 t (1.1%)	ケーキ状 無し 含水率 83%	排水処理場
	○ 排水処理場及び各ピットより出る有機汚泥	23 t (1.2%)	泥状 無し	処理委託 (リサイクル) 堆肥化
廃プラスチック類 A	○ ポリ系の原料・製品梱包用袋、容器、使い捨て手袋等で主にシート状のもの。	349 t (17.6%)	無し	処理委託 (100%リサイクル) サーマルリサイクル 焼却後残渣：なし
廃プラスチック類 B	○ 上記以外のプラスチックと金属等が付着し分別困難な物。	13 t (0.7%)	無し	処理委託 (分別一埋立 “安定型”)
廃プラスチック類 C	○ リサイクル可能な未使用トレイ、プラスチック容器、結束バンド類	2 t (0.1%)	無し	処理委託 (リサイクル) サーマルリサイクル
金属くず	○ 空き缶、金属くず、廃棄する機械部品等。	24 t (1.2%)	無し	処理委託 (リサイクル) 有価売却
	計	1,979 t (100%)		最終埋立処分 計 13 t

